

「登別市役所本庁舎整備事業に関するサウンディング型市場調査」の結果概要について

登別市では、市役所本庁舎の整備について、建設位置を「旧陸上競技場敷地」とし、令和8年度の供用開始に向けて事務を進めておりますが、庁舎の建設位置の検討に加え、残る敷地の有効活用や周辺敷地との連携や一体的な活用など、地域の活性化と市民の利便性の向上に向け、まちづくりとして一体的に検討していきたいと考えております。

旧陸上競技場敷地内における市役所本庁舎の建設位置や市民の憩いの場の整備はもとより、同敷地内での民間収益施設等の建設による敷地全体の有効活用の可能性、建設手法や構造、概算費用、設計期間、整備期間等を整理するとともに、事業者の皆様の優れたノウハウを最大限活用しやすい発注方法や、より参加しやすい公募条件等を整理することを目的に、「登別市役所本庁舎整備事業に関するサウンディング型市場調査」を実施しましたので、その結果を公表します。

1 実施経過

日程	内容
令和3年11月16日（火）	実施方針の公表
令和3年11月22日（月）から 12月3日（金）まで	サウンディング型市場調査に向けた事前相談
令和3年11月22日（月）から 12月10日（金）まで	サウンディング型市場調査の参加申込受付期間
令和3年12月17日（金）	提案書の提出期限
令和4年1月11日（火）から 1月21日（金）まで	サウンディング型市場調査の実施

2 対話参加職員数

参加事業者	対話日	対話時間
参加事業者A （オンライン）	令和4年1月12日（水）	10時～12時
参加事業者B	令和4年1月12日（水）	14時～16時
参加事業者C	令和4年1月13日（木）	14時～16時
参加事業者D	令和4年1月14日（金）	14時～16時
参加事業者E	令和4年1月17日（月）	14時～16時
参加事業者F	令和4年1月18日（火）	10時～12時
参加事業者G	辞退	
参加事業者H	令和4年1月19日（水）	14時～16時
参加事業者I	令和4年1月20日（木）	13時～15時

参加事業者 J	令和 4 年 1 月 2 1 日 (金)	1 0 時～1 2 時
参加事業者 K	令和 4 年 1 月 2 1 日 (金)	1 4 時～1 6 時

3 調査結果の主な概要

参加事業者	主な提案内容
参加事業者 A (オンライン)	<p>本庁舎の位置が現在地から 6 0 0 m 移転することによる新しいまちづくり及び機能の集約化における課題とその解決策や、具体的な本庁舎整備のイメージ案をお示しいただいたほか、建築手法について、設計施工一貫方式の採用が望ましく、庁舎は将来の分棟化増築に配慮した配置、平面計画とし、将来の規模縮小については、他の機能の取り込みにより対応する等のご提案をいただきました。</p> <p>また、住民参加型のワークショップを行い、学識経験者やファシリテーターからの中立的な意見をいただくとともに、次代を担う若い学生たちの意見、アイデアも反映したうえで、庁内検討委員会で意見調整を図るなどワークショップの進め方についてご提案をいただきました。</p>
参加事業者 B	<p>庁舎が災害時に防災活動の本部としての機能を発揮するため、災害に強い構造システムである P C 圧着関節工法についてご提案をいただきました。</p> <p>制震効果を有し、耐震性・耐久性共に優れている P C 圧着関節工法を採用することにより、無柱空間の庁舎の実現、整備コスト、ランニングコストやメンテナンスコストの縮減、また、工期短縮に有効であるとのことをご提案をいただきました。</p>
参加事業者 C	<p>道内自治体での採用実績に基づき、公共施設の複合化や建設手法の事例、道産材の利活用方法、設計期間の短縮方法についてご提案をいただきました。</p> <p>建設手法については、E C I 方式を採用した方が、実施設計期間中に施工者の助言を得ながら設計者が設計を進めていくため、実勢に見合ったコストで設計を進めることができ、また、補助金事業にも向いているとのことをご提案をいただきました。</p> <p>また、職員が働きやすい庁舎を作ることが市民サービスの向上に繋がることから、職員とのワーキンググループの重要性についてもご提案をいただきました。</p>
参加事業者 D	<p>高齢者、車いすの利用者等に水たまりのない安全安心な歩行空間を提供する透水舗装や、環境配慮型の地中熱ヒートポンプ、庁舎内廃熱を利活用する融雪システム、Web カメラにより路面の降積雪状況を高精度で制御することにより従来のロードヒーティングの熱エネルギーを削減できる監視システムなど、製品やシステムのご紹介をいただき、優先駐車場や通路のロードヒーティングとしてこれらのシステムが活用できる</p>

	<p>のではないかとのご提案をいただきました。</p>
参加事業者E	<p>オフィス設計や移転におけるプロジェクトマネジメント業務の重要性についてご提案をいただきました。</p> <p>また、オフィスレイアウト等に関する新庁舎整備を担当する職員が抱える課題や、その解決方法についてご説明いただいたほか、道内自治体の採用実績や自治体先進事例もご紹介いただきました。</p> <p>I C Tの利活用や窓口の配置に係るD Xの推進、発券機を利用した窓口の運用、備品調達や移転コストの削減についてご提案をいただきました。</p>
参加事業者F	<p>陸上競技場の機能を踏襲し、周囲の自然や広場と一体的に繋がる「パブリックでアクティブ」な庁舎や、大人も子どももみんな訪れる「交流と賑わいの核」となる庁舎、また、市民の利便性向上のためのモビリティネットワークの拠点、人と街が持続的に成長する好循環を生み出せるまちづくりなど、敷地の活用方法についてご提案をいただきました。</p> <p>また、特殊な構造を使わず地元業者が施工できるような構造手法とし、地元産業に寄与できる計画を考え、周辺のパブリックエリアと庁舎施設等が一体的に利用できる庁舎、又、健康増進をテーマとした庁舎とするなどのご提案をいただくとともに、庁舎整備やまちづくり全般として、他自治体の実績事例をご紹介いただきました。</p>
参加事業者G	<p>辞退</p>
参加事業者H	<p>将来的な公共施設の集約、暫定利用、災害時対策など多様なシーンに対応できる柔軟な敷地利用について、敷地のゾーニングイメージとともにご提案いただき、また、低層1棟の鉄筋コンクリート造を基本とし、必要機能を絞り機能の効率化を図ることで、初期投資を抑えつつ市民交流・職員交流・産業交流が促進される庁舎整備について、ご提案をいただきました。</p> <p>また、環境への配慮や再生可能エネルギーに関することとして、常時・非常時に対応可能、かつ、カーボンゼロを目指した施設・地域のエネルギーマネジメントと自然の持つ価値を活かしたパッシブデザインの導入とともに、庁舎整備を契機としたブランディングについてご提案をいただきました。</p>
参加事業者I	<p>職員の知的生産性向上・業務効率化により住民サービスの向上を図るため、オープンフロアのワンルーム計画で、職員にとって業務効率が良く、来庁者にとって利便性が高い庁舎となるよう、必要な機能を無駄なく兼ね備えたコンパクト庁舎とし、I C T技術により知的生産性を向上させ、職員のモチベーションを向上させる、新しい働き方を実践する庁舎となるよう、住民サービスが向上するフレキシブルなイノベーション庁舎とすることについてご提案をいただきました。</p>

	<p>また、市民の安全・安心な暮らしを支える拠点となる庁舎の計画や、ライフサイクルコストを低減させる庁舎の計画についてご提案いただいたほか、カーボンシティ宣言を行った自治体へ実現に向けたシナリオ作成などの再生可能エネルギーの導入についてや、事例を紹介しながらZEBに関する庁舎整備と採用技術についてご提案をいただきました。</p> <p>敷地の活用方法では、ワーケーションのコアとなるコワーキングスペース併設や、登別らしさを新庁舎に活かす手法についてご提案をいただきました。</p>
参加事業者 J	<p>広い敷地だからこそ実現可能な「防災機能の強化」を主軸とした庁舎設計や、敷地の活用方法についてご提案をいただきました。</p> <p>他自治体の事例から、複合施設に関することや、環境に配慮した省エネ施設に関すること、木材の活用方法に関すること、土地の有効活用に関することなどをご紹介いただきました。</p> <p>また、敷地に商業施設をとということではなく、敷地をスタート地点とし、人を街中へ貫流させるための庁舎として活用する考え方についてご提案をいただきました。</p>
参加事業者 K	<p>庁舎のコンセプトを「交流」、「元気」、「優しさ」とし、敷地内に「まちの駅」を建設することで、「交流」、「元気」、「優しさ」の実現を目指し、施設内には、観光センター、物産展、などを設置するなどのご提案をいただきました。</p> <p>公共施設の複合化については、図書館と郷土資料館を庁舎に併設することで、来庁者に歴史や風土への理解促進を図るとともに、保育所や児童クラブ、キッズルームなどの子育て関連施設の併設についてもご提案いただいたほか、コミュニティバスや乗り合いタクシーの活用についてもご提案いただきました。</p> <p>本庁舎の整備手法や構造については、1棟の鉄筋コンクリート造を基本に検討し、フリーアドレスにより無駄な備品の削減を行うことや、サーバーのクラウド化についてご提案をいただきました。</p> <p>また、井戸水を浄水濾過して施設等に使用すること、太陽光パネルを壁面に装着すること、また、子どもたちとのワークショップの実施などについてもご提案いただきました。</p>

4 今後の対応、方向性

今回のサウンディング型市場調査を通じて、10社の事業者より、本庁舎整備に係る優れたノウハウや高度なアイデアをご提案をいただきました。

敷地の活用方法や、本庁舎の整備手法、構造などについて、それぞれの強みを活かした様々なご提案をいただくことができ、非常に有意義な調査となったものと考えております。

本庁舎整備事業は、本市においてもまちづくりの活力を高める重要な機会と認識しておりますので、今回いただいたご提案の内容を踏まえ、本市にとって最適な手法を見極めながら、今後の庁舎設計や敷地の活用方法、まちづくりの検討の中で知見を活用させていただきます。